

1 開催日時

令和4年6月28日(火) 13:15~14:40

2 開催場所

三島市役所 本館3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

亀田委員(座長)、大村委員(座長代理)、下村委員、鈴木委員、秋山委員、木暮委員、伊藤委員、齊藤委員、清水委員、笠原委員、野口委員(第2層コーディネーター)

欠席:三沢委員、秋津委員、梅原委員

(2) 事務局

<健康推進部>

白井部長

<健康推進部 地域包括ケア推進課>

石井課長、原係長、細谷第1層生活支援コーディネーター、長谷川主査

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

0人

6 会議の内容

(1) 依頼状交付

(2) 健康推進部長挨拶

(3) 座長及び座長代理選任

(4) 議題

ア 地域づくりと協議体の役割について

【事務局説明】

第1層生活支援コーディネーターより、資料1に基づき説明

【質疑・応答】

(委員)

地域活動を50年近くやってきたが、地域づくりのなり手がいないことが課題。

また、引きこもりがちの高齢者への支援を行うにあたり、旧市内では自由に使える会場の確保が課題となっている。

(座長)

マンションにおいて地域づくり活動を行う際、会場の確保は容易だが、引きこもりがちの高齢者は

多い。今年5月に新たにシニアクラブを立ち上げたので、今後様々な活動を実施していく。

(委員)

三島北地区は、各町内会での団結力・繋がりがある反面、やはり孤立してる方も非常に多く、私たち支援者が関わって初めて人との関わりができた方もいる。地域の方を巻き込むように支援するのが理想だが、そこまで繋がることができているケースも非常に多い中で、地域の繋がりを深めていくことが非常に重要だと考えている。

(委員)

生活支援コーディネーターとはどういう人のことを指し、現在は何人いるのか教えていただきたい。

(事務局 第1層生活支援コーディネーター)

第1層生活支援コーディネーターは私1人。第2層生活支援コーディネーターは、三島市社会福祉協議会に委託し、5人で活動している。本協議体において、各圏域から出された地域が抱える課題、地域の特徴に関する情報を共有するとともに、地域で解決できない課題を協議し、出された意見や提案を第2層協議体にフィードバックすることにより、解決策を検討していく。

(委員)

第1層生活支援コーディネーターは現在1人ということだが、様々な問題がある中で人員は十分なのか。

(事務局)

現在の第1層生活支援コーディネーターと5人の第2層生活支援コーディネーターが協力し、また、この第1層協議体における話し合いの中で、よりよい地域づくりを進めていく。

(委員)

地域の意見・課題は直接第1層生活支援コーディネーターの耳には入らないので、各圏域で活動している第2層生活支援コーディネーターには頑張ってもらいたい。

## イ 令和4年度地域支え合い会議について

### 【事務局説明】

第2層生活支援コーディネーターから今年度の地域支え合い会議開催にあたり、資料2に基づき説明

### 【質疑・応答】

(委員)

昨年の秋から、北上地区地域支え合い会議にてご一緒した方とコラボして、屋外で居場所活動を始め、農作業やハーブ園づくりを行っている。異なるグループ同士で活動することにより、世代間交流が生まれており、北上地区は課題解決に向け前進している。

(第2層生活支援コーディネーター)

社会福祉協議会では地域共生社会の実現に向けて事業を展開するため、世代や分野をこえて集まれる旧市内の居場所として、社会福社会館にてわいわいボッチャ居場所を4月に開設した。ボランティアとして高校生に参加してもらうとともに、学校帰りの小学生に参加してもらうことにより、世代間交流が生まれるものと考えている。

(委員)

出張認知症カフェを市内各圏域で実施しているが、北地区では商工会議所を利用している。今回絵

本の読み聞かせを始める。今後は、絵本の読み聞かせを通して、高齢者だけでなく子育て世代を巻き込んで新たな取り組みを始めたいと考えている。

ウ シニアの生きがいづくりや仲間づくり、介護予防の情報発信 LINE アカウント「みしまスマイル」について

**【事務局説明】**

事務局より、資料3に基づき説明

**【質疑・応答、その他意見】**

(座長)

みしまスマイル講習会を開催してもらい、私たちシニアクラブで約20人が参加し非常に好評であった。ぜひもう一度開催してほしいという希望が上がっている。

(委員)

ボランティアグループの活動にあたり、LINEグループを作成して連絡を取り合っている。スマホを利用していない方や既読にならない方もいるが、無理がない範囲で活動をしている。

(委員)

キャラバン隊にLINE講習会を開催してもらい、居場所の連絡はLINEグループで行っている。やはり、スマホを利用していない方や既読にならない方もいるが、概ね活用できている。

(委員)

三島市としても広報にQRコードの掲載をしていたり、IT推進をしているが、ただ旗を上げるだけでなく、安いスマートフォンを配る等、実際にどのように使わせていくかを考える必要がある。地域のキーとなる方に配布して地域づくりに役立ててもらいたいと思う。現在の方向性はいいと思うので、地域づくり・仲間づくりに活かして欲しい。

(事務局 第1層生活支援コーディネーター)

スマートフォンを持っているだけの高齢者に対し、一つの入口としてLINE等を使い、慣れてもらうことにより、次のステップとして家族との会話や連絡等に利用してもらえればと考えている。

エ その他

**【事務局説明】**

今までの議題に関してや委員の皆様から議題にあげたいことがあるかについて問いかけた。

**【質疑・応答、その他意見】**

(委員)

シルバー人材センターの会員で、LINEの使い方がわからない方も多く、スマートフォンを持っている人への一つの入り口は必要だと感じた。

(委員)

各地域の皆さんがどんな活動をされてるかを楽しみにしていて、北上地区は地域の方の力がとても強く活発に活動をされてる方が多く、今後も頑張っていきたい。

(委員)

居場所に関して、様々な地域でいろいろな活動を工夫して行っていて、とてもいいことだと感じている。ただ、居場所に来れない人たちや声を出せない人の課題といった水面下に潜んでいるところをどのようにして吸い上げていくのか、そこに焦点を当てていく必要があると感じている。

(委員)

地域支え合い会議に出席した際にも、旧市内は集まれる居場所が他の地区よりも少ないことが話であっており、その中でどうやって関わっていけるか、今始めたところ。まず私たちの方が出向いて地域の課題を一緒に語れるようになれるといいなと思っている。

(委員)

私の周りでは、その日暮らしの生活をしなくてはならないために、スマートフォンを持たない層の人がかなりいる。そういった層にも目を向けて支援していくのが、行政の大事な仕事だと考えている。

## (5) 事務連絡